

# 周辺機器連携が進むカーナビゲーション

渡部秀雄\*  
三次達也\*

## Progress of Car Navigation in Cooperation with In-Car Peripherals

Hideo Watanabe, Tatsuya Mitsugi

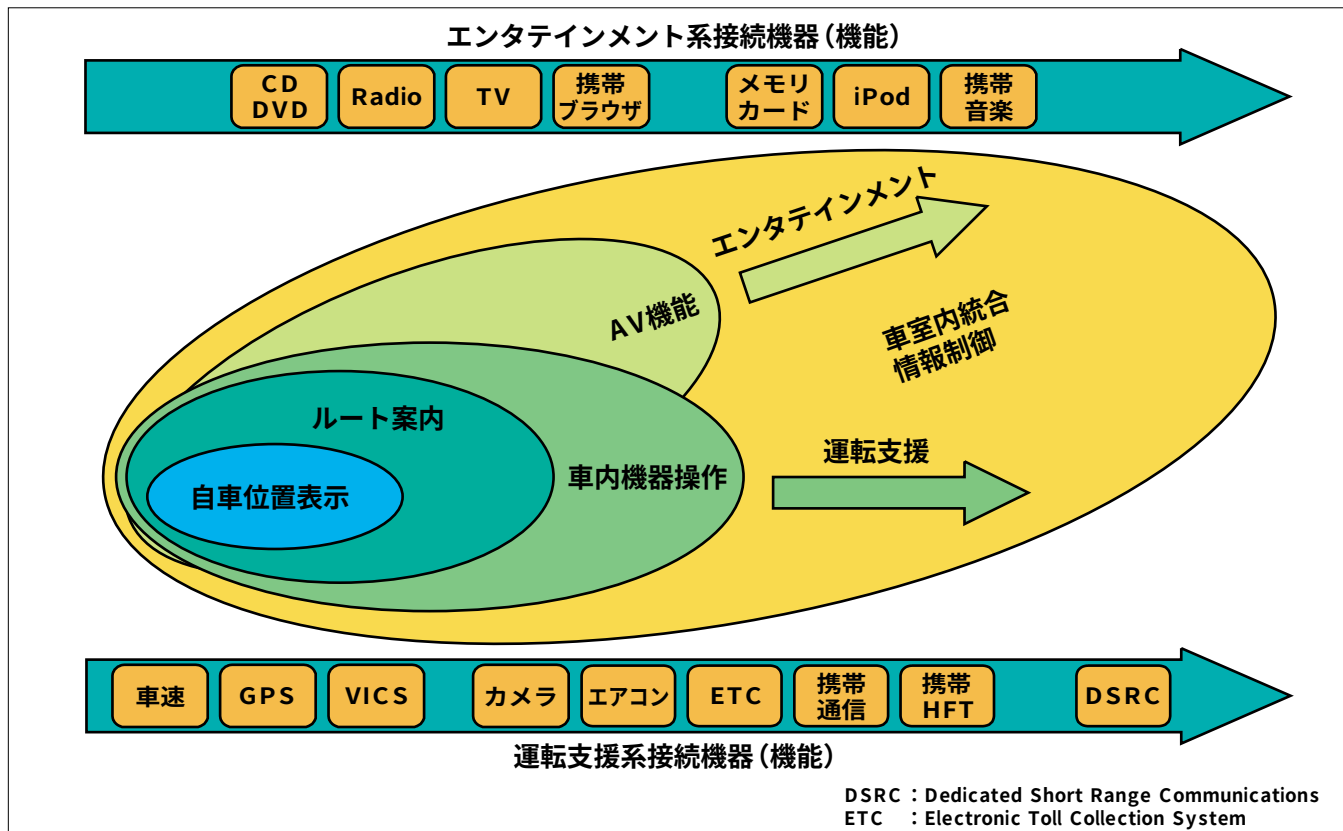
### 要 旨

演算処理装置の性能向上やメモリ容量の増大、表示機能の拡大など、要素技術の発展に伴い1980年代に登場したカーナビゲーションシステム(以下“カーナビ”という。)もその機能や性能が著しく向上している。カーナビの基本機能は、目的地までの適切なルートを求めてそのルートに沿ってドライバーが安全かつ、快適に走行できるように案内することである。適切な案内をするため、自車がどこを走っているかを求める必要があるが、その自車位置の精度を高めるために、ジャイロ、GPS(Global Positioning System)、車速センサなどのセンサ情報を利用する。道路状況に合わせたルートを求めるためにVICS(Vehicle Information and Communication System)から渋滞情報を取得する。これまで、運転支援を中心としてカーナビは高度化されてきた

が、ここ数年の動向としてインターネットブラウジングや、DVD映像再生、音楽録音と再生などエンタテインメント機器としても飛躍的に高度化している。

車両側もバックカメラやコーナセンサを搭載し、電装品による運転支援が高度化され、それら機器と連携することで、今後もカーナビは運転支援系、エンタテインメント系でさらなる発展をしていくものと考えられる。

上記発展は、カーナビ単体の発展ということではなく、外部機器の発展とそれら機器とカーナビがどのように連携していくかにかかってくる。本稿では、これら外部機器との連携という視点でカーナビ発展の歴史と今後の課題について述べる。



### カーナビゲーション機能向上と外部機器

カーナビゲーションは目的地までのルートを求めて案内する機能から、バックカメラやエアコン、携帯電話などの機器操作をするユーザーインターフェイスとしての役割が追加され、広い意味での運転支援機器へと発展してきた。一方、ラジオやテレビ、CDなどの音楽ソースの視聴のため多くの外部機器と連携しエンタテインメント機器としても発展している。